やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌　　名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	39 / 2018 / 55-56　(再編集版)
タイトル	蝦名憲さんを偲んで
著　者　名	五十嵐　正俊

自然を見つめる　やぶなべ会（青森）

蝦名 憲さんを偲んで

第3代　五十嵐　正俊

やぶなべ会初代会長だった蝦名　憲さんが2017年9月25日に午後3時過ぎに88歳の生涯に目を閉じられた。

蝦名さんは卒業後も後輩たちとの接触を重ね、会報「やぶなべ会」を発行することになったほか、生物部OBの名簿整理など「やぶなべ会」の活動に心身尽力されました。さらに、保健事務所からの依頼で、「県内のせせらぎウオッチング」の指導を引き受けられて青森県内の各河川の調査を行って各地の小中学校の子供らに調査の仕方を指導されたのでした。

蝦名　憲氏遺影 (葬儀式場にて, 2017年9月27日)

最初青森市交通部に就職されたのを機会に「バス」をチャター?して生物部員たちの夏泊半島への遠足を企画されたことがあり、女性の車掌さんは乗車されていたのでしたが、当時の夏泊半島の道路は道幅も狭く、目的地も間近になった「東田沢」付近で道に張り出した岩があり、車掌さんが降りて誘導する際、責任感の強い蛯名さんもステップに立って誘導中「グラッ」とバスが揺れた瞬間「岩とステップ」との間に足の踝付近を挟まれてしまったのだった。この事故が原因で、歩いての行動よりも車中心の行動になったのではないかと思います。

その後、私は職場の関係で35年間青森を離れたのでその間のことには疎いのですが「ゲンジボタル」の棲息状況に関心を持たれて各河川の生息状況を調査する傍ら「森林博物館」に転勤されて精力的に「ゲンジボタル」の飼育も行っていたのです。そして、陸奥横浜のある細流が「ゲンジボタル」北限の生息地であることが判り、地元の方々を指導されて「北限のゲンジボタル」の保護活動を行ったのでした。

定年後故郷に舞い戻った私は坂本滝夫さんと共に故西村幹夫さんの補助役に「せせらぎウオッチング」の調査活動（指導）に参加して北は大間、西は深浦、東は三戸などと一緒に蛯名さん運転の車に便乗して走り回ったのでした。そして12年前の平成17年、次の様に表彰されたのでした。この時は坂本滝夫さんも一緒で、たまたま東京からの帰りの日だったので途中下車して会場の「東北学園大学」で行われた授与式を見ておりました。水環境学会の受賞理由は次のようになっています。

【やぶなべ会／ 代表：蝦名　　憲】

○ 約40年にわたる生物、水質調査等の実施、特に環境省（旧環境庁）主催の水生生物調査「せせらぎウォッチング」に開始当初から参画し、小中高校生、各種団体の指導により、地域の水環境の保全と創造、指導者の育成に貢献

○ 展示会、雑誌、会報等を通じた、子供たちや住民への自然環境保全の普及啓発活動
○ 各地のホタルの里造り等への助言、参画による地域おこし、町おこしへの貢献

平成17年度(06/03/仙台)

表彰式(2005年6月3日)

佐々木誠造 青森市長に報告．右・坂本滝夫氏
(2006年3月28日，市長室)

調査活動の無い日は「浅虫」の老舗「永井の久慈良餅」を造っておられた奥さんの送り迎えに朝夕車を走らせていたのでしたが、いろいろご苦労も重なり、「認知症」の症状も見られる様になり、トヨタの「チェーサー」から軽自動車に乗り換えたから「チェーサー」を引き取ってほしいと電話があったのでしたが、それから間もなく、「やぶなべ」の話が出ると興奮するので、「電話を遠慮して欲しい」と娘さんからの電話を受けたのでした。気にはなっておりましたが、ダイヤルのボタンを押すことも無く、施設にでも入所されたのか動向が気になっておりました。

「訃報の知らせを聞いて」御遺体が安置されているという「典礼会館久須志」に行って見ますと既にお棺の中に眠るように横たわっている蛯名さんの亡骸に会うことが出来ました。その傍らには出棺前の仮祭壇に微笑みを浮かべている「遺影」が飾られていたのでした。そして間もなく、ご遺族の方々と一緒に菊やランの花々を御遺体の周りに収め出棺となったのでした。9月29日青森の斎場に向かう途中「涙雨」が降っていたのを思い出します。

青森の斎場では7基ある火葬炉の2号室に最後のお別れをする3姉妹の様子を見て私も涙が滲んできたのでした。斎場職員に手でお棺は2号炉の中に静かに収められ、ステンレスの扉が静かに降ろされ、赤いランプが点灯されたのでした。

お骨が供えられた青森市栄町の典礼会館2Fの祭壇には娘さんたちのアイデアで右上から流れ降る「白菊」は渓流を表現し、水量を増して里山に下った流れには、黄色の花でホタルをイメージするようにと依頼したとのことでした。その中央には微笑みを浮かべる蛯名さんの大きな遺影が今にも参列者に語り掛けるように見えました。そして幼馴染だったという野内のお寺さんの住職の読経の後、参列者に向かって「戒名」の説明があり、蛯名さんの業績を考えると「ホタル」のことはどうしても入れなければということで、「佛宝院量阿蛍光浄憲善居士」としたとのことでした。

謹んで故蝦名憲さんのご冥福を祈っています。